

市長コメントあり

回答の概要あり

令和3年5月6日

市政記者クラブ 様

観光文化交流局名古屋城総合事務所

担当：荒川（231-2488）

現天守閣解体申請に対する文化庁からの指摘事項への回答提出について

名古屋城天守閣整備事業に関し、現天守閣解体申請に対する文化庁からの指摘事項への回答提出について、本日、郵送により発送したことをご報告させていただきます。

- 4月8日に、文化庁の次長にお会いして、「現天守閣解体申請に対する文化庁からの指摘事項への対応」について報告して参りましたが、その後、担当の主任調査官から丁寧にご指導をいただき、追加情報として取りまとめて、本日、郵送で提出する運びとなりました。
- 内容につきましては、有識者にもご了承をいただいておりますことから、今回、追加情報を受け取っていただくことで、5月の文化審議会にご報告していただき、一定の方向性を出していただけるものと思っております。
- 今回、江戸期の名古屋城本丸の姿を再現することとした、名古屋城本丸整備基本構想を策定しました。木造天守の整備につきましては、令和3年度の調査も踏まえ、石垣の保存を確実に図る仮設計画とし、解体に加え復元についても一体的な審議をお願いしたいと思っておりますので、今後、文化庁の指導をいただきながら復元の具体的な計画を提出して参りたい。
- 市民の期待も大きいことから、世界に誇る日本一の近世城郭を目指し、引き続き魂を込めて全力を尽くしていく所存でございます。

令和3年5月6日
河村 たかし

現天守閣解体申請に対する文化庁からの指摘事項への回答の概要

1 現天守の解体・仮設物設置が石垣等遺構に与える影響を判断するための調査・検討について

【概要】

特別史跡として保護すべき石垣等遺構の詳細な現状把握に基づく考古学的視点からの調査・検討を行うため、有識者との相談の上、内堀においては、現天守解体の申請前に実施した発掘調査13箇所に加え、新たに9箇所の発掘調査を行った。御深井丸においては、仮設物設置区域を網羅する25箇所の発掘調査を行った。

現天守の解体・仮設物の設置計画については、指摘事項を踏まえ、考古学的視点及び工学的視点を合わせた総合的な視点からの検討ができる体制を整えた石垣・埋蔵文化財部会をはじめ、天守閣部会、全体整備検討会議に各種調査・検討結果を諮り、各分野の有識者による十分な議論のうえ、計画が適切であるとの合意を得た。なお、以下の点については、引き続き調査・検討を行い必要な対策を実施する。

調査により把握した天守台石垣の築石の割れ、被熱劣化による剥離、並びに御深井丸側内堀石垣の築石の表面劣化、間詰石の抜け落ちについては、仮設物設置前に必要な対策を実施する。御深井丸側内堀石垣については、令和3年度に石垣背面の空隙、築石の控え長などの詳細調査を実施し、その結果を踏まえて石垣の保存を確実に図る仮設計画とする。小天守西側の濃尾地震の際に修復した石垣の部分については、令和3年度に地下遺構面の標高を確認する調査を実施し、その結果を踏まえて石垣の保存を確実に図る仮設計画とする。

ア 内堀の地下遺構の把握、御深井丸側内堀石垣の現況及び安定性を確認するための追加発掘調査

ア-1 内堀堀底の地下遺構

内堀底面において実施した地中レーダー探査の結果も参照して調査区を9箇所追加し、全体で22箇所の発掘調査により地下遺構の全体状況を把握した。堀底の層序は概ね安定しているが、やや規模の大きな攪乱が堀の中央部から御深井丸側内堀石垣寄りに多く見られた。

把握した地下遺構面に働く仮設物設置の荷重及び想定される遺構面の最大沈下量について再検討した結果を有識者会議に諮り、地下遺構に対する影響は軽微であるとの合意を得た。なお、小天守西側の濃尾地震の際に修復した石垣の部分については、令和3年度に実施する調査結果を踏まえて石垣の保存を確実に図る仮設計画とする。

ア-2 御深井丸内堀石垣

外観総合調査票(石垣カルテ)の見直しを行い、築石の表面劣化や間詰石の抜け落ち、近現代における積み替えに対応すべき課題があると把握したほか、7箇所の追加発掘調査を実施し、石垣の裾部の現状を把握した。追加調査区では築城時の地業が残り、本来の姿を留めている地点が多く、根石まで及ぶ後世の改変が推定されるような状況は見られなかった。

仮設物設置の前に必要な対策を行うとともに、令和3年度に実施する御深井丸側内堀石垣の調査結果を踏まえて、石垣の保存を確実に図る仮設計画とする。

イ 御深井丸の地下遺構把握のための発掘調査

仮設構台・栈橋を設置する区域において、25箇所の発掘調査を実施した結果、保護すべき近世盛土は厚く残っているが、その盛土層の上に築かれた遺構は希薄であること、礎石展示場所については、昭和の礎石移設時に、厚く盛土がなされていることを確認した。

礎石展示場所における仮設構台・栈橋の基礎形状、現在の通路部分における地上面の盛土の厚みを見直した。

見直した仮設物設置計画における遺構面に働く仮設物の荷重及び想定される遺構面の最大沈下量について再検討した結果を有識者会議に諮り、地下遺構に対する影響は軽微であるとの合意を得た。

ウ 大天守台北面石垣の孕み出しについての調査・検討

孕み出し部の石垣裾部について、追加発掘調査を実施し、石垣地下部分、地盤ともに孕み出しの影響が地下に及んでいないことを確認した。

調査の結果を踏まえ、工学的解析の結果を有識者会議に諮り、仮設物設置の影響は軽微であるとの合意を得た。

また、当初の計画通り、孕み出しの中段以下は内堀保護工により孕み出しを抑制し、孕み出しの上部は大型土のうにより、石垣を確実に保護する。

エ 天守台石垣背面等の空隙についての調査

エ-1 天守台石垣

大小天守台石垣の各面につき、外観総合調査票（石垣カルテ）の見直しを行い、築石の割れや被熱劣化による剥離に対応する必要があることを把握した。見直しの結果を踏まえ、令和3年夏頃を目途に石垣保存方針を策定する。築石の割れや被熱劣化による剥離については、石垣保存方針に基づき、必要な対策を仮設物設置前に実施する。

孕み出し部について、詳細なレーダー探査を追加実施したところ、栗石そのものが落ち込むことなどによる安定性を損なうような空隙は認められず、構造体としては安定している状態であると考えられる。

エ-2 天守台以外の石垣

外観総合調査票（石垣カルテ）の見直しにより把握した石材の劣化等について、石垣保存方針に基づき必要な対策を行うとともに、令和3年度に実施する御深井丸側内堀石垣調査の結果を踏まえて、石垣の保存を確実に図る仮設計画とする。

2 現状変更を必要とする理由について

天守の整備については、「特別史跡名古屋城跡保存活用計画（平成30年5月）」において、本質的価値の理解を促進するという点で優位性が高いことから、整備方針を木造復元として整理し、検討を進めてきた。今回、現天守の耐震性能が極めて低く危険な状態であり、放置できないことから現天守閣解体を先行して申請したものであるが、現天守解体の本来の理由である木造天守復元について、名古屋城本丸の整備基本構想として定めた。今後、木造天守復元に係る計画の具体的内容について、提出していきたい。